



筑波大学  
University of Tsukuba

# Tsukuba Communications

vol.1



2 創刊にあたって 岩崎学長インタビュー

4 創刊特別対談 「地球環境問題を考える」  
枝廣 淳子氏 × 泉 紳一郎氏  
(環境ジャーナリスト) (前筑波大学副学長)

10 特集 座談会「筑波スタンダード」

16 特集 平成19年度決算

18 学内組織紹介 研究基盤総合センター

20 附属学校紹介 附属小学校

22 TSUKUBA SPORTS 硬式野球部

24 TSUKUBA ART & CULTURE 管弦楽団

26 TOPICS 受賞／交流

28 羽ばたく OB&OG 青山祐子氏／中山雅史氏

32 リレーエッセイ

34 新聞記事掲載一覧

35 イベントカレンダー



「Tsukuba Communications」の創刊にあたり、岩崎洋一学長に学内誌に対する期待などについて尋ねてみました。インタビュアーは広報室で「速報つくば」の編集にあたり、現在はWebを担当する山崎敏誉さんと国際広報を担当する関本啓子さんです。

**山崎** 「Tsukuba Communications」の創刊にあたって、この新たな学内広報誌に対する岩崎学長の期待をお聞かせ下さい。

**岩崎学長** 筑波大学は全国でも例を見ない幅広い学問分野を有しています。学内組織も、学群・学類、研究科・専攻、センター、附属図書館、附属病院、附属学校11校、事務・技術系組織と実に多様で、様々な専門性や役割を持った構成員の皆さんに支えられています。

ところが、私も一人の教員として長くこの大学で働

いていましたが、それぞれの現場にいと、大学全体の動きや他の組織の活動などを知る機会は少ないんです。課外活動も体育系・芸術系などとても盛んです。その活動予定や大会の結果などをより多くの人々が知ることになれば大学全体で盛り上げていくこともできます。大学のことを少しでも知り、それぞれの組織やそこで働く人たちの顔が見えてくれば、学内のコミュニケーションがもっと活発になるのではないかと、互いの交流を深めることで新しいことがもっと生まれてくるのではないかと。新たな学内広報誌にはそんな期待を込めています。

**関本** 私たちもそのご期待に応えられるように、全学の教職員の皆さんの協力を得ながら「Tsukuba Communications」を育てていきたいと思っています。ところで、岩崎学長の任期も残すところ半年となりました。これまでの4年半を振り返っての感想をお聞かせ下さい。

**岩崎学長** 法人化と同時に学長に就任しましたが、教職員の皆さんのお陰で、非公務員化に対応した労働条件整備、大学独自の予算編成・決算をはじめ、国立大学法人に相応しい体制も整い、運営も定着してきました。それにより、法人化以前と比べ、大学の自律性も大幅に高まったと思います。

その一方で、計画・評価が重視され、運営費交付金の縮減や総人件費削減への対応を余儀なくされるなど、これまでにない厳しい状況の中、運営の効率を高めな



インタビュアーの関本氏(左)、山崎氏



がら、教育研究の質を維持・向上させていくために苦心を重ねてきました。大学だけの力ではどうにもならない要素もありますが、大学本部と各部局が一緒になって議論を重ね、厳しい状況に対処してきた経験や成果は、大学の将来にきっと役立つものと考えています。

**山崎** 取り組んでこられた施策の中で、具体的な成果だと考えておられる事項をいくつか挙げていただけますか。

**岩崎学長** 教育面では、学群改組と筑波スタンダードを挙げたいと思います。学群改組は本学のかねてよりの懸案であり、筑波スタンダードは中期計画の中で社会からも注目されていた事項でした。特に、筑波スタンダードについては全ての学類・専門学群が作り上げ、公表したという点で、学外からも高い評価をいただいています。今後は、不断に改善を重ねながら教育の質の向上につなげていかなければなりません。

学生支援面では、スチューデントプラザの設置により、学生生活からキャリアに関する支援まで一箇所で行うことができ、数多くの学生が集まるようになりました。

研究面では、科学研究費補助金の申請・採択が着実に増え、共同研究・受託研究等の外部資金も大幅に増加しています。教職員の努力に敬意を表したいと思います。

経営面では、経費削減努力により捻出した特定目的積立金を使って、研究スペースを拡充するために新共用棟の建設に着手したり、施設・設備の改善・改修を行ったりしています。国の施設整備費補助金の抑制が続く中、このような自助努力はとても大切です。

その他にも、全教員が参加した教員評価の試行実施、課長の内部登用を含む事務職員人事の見直し、技術職員の組織化など、様々な試みを行いました。これらの施策が将来の発展に繋がることを願っています。

**関本** 現在力を入れておられることを含めて、残りの任期で取り組みたいことはどのようなことでしょうか。

**岩崎学長** 平成22年度から始まる次期中期計画の素案を来年6月には国に提出しなければなりません。次期学長予定者と協力し合って、次の中期に盛り込むべき



ミゼレーレ17の前で、中村晋也先生と

施策の検討を各組織の意見を聞きながら進め、次に引き継ぎたいと思います。その中の最も重要な施策の一つになると思いますが、国の留学生30万人計画に対応した本学のさらなる国際化に向けた戦略策定と基盤整備については、現在特に力を入れて検討を進めています。

**山崎** 先ほど学長は大学だけの力ではどうにもならない課題があるとおっしゃいましたが、そのような課題についてのお考えをお聞かせ下さい。

**岩崎学長** 国立大学協会の活動をより活発にして、積極的に社会や政府に発信し働きかけていくことが必要だと思います。運営費交付金の縮減や施設整備費補助金の抑制は国立大学というシステムの基盤を揺るがしかねません。

また、私自身、国大協の評価委員会委員長という立場にありますので、評価のために必要以上に負担がかからないように、真に有効な評価システムとなるように、関係機関に働きかけていくつもりです。

**関本** ところで、学長は大変ご多忙だと思いますが、ホッとする時間はあるのでしょうか。

**岩崎学長** 以前はテニスをしていたのですが、最近はまとまった時間がとれないので、音楽を聴いたり本を読んだりする以外はウォーキングで気分転換しています。夕方、仕事に一区切りついた時にキャンパス内を歩くこともあります。帰宅後や休日に歩く時は、若い人たちにはお馴染みのiPod nanoで音楽を聴きながら歩いています。どのようなジャンルの曲かは秘密ですが、教職員の皆さんには何よりも自身の健康に気を付けてほしいと思います。自分と家族の健康があつてはじめて良い仕事もできます。筑波大学が学ぶ人にとっても働く人にとってもさらに魅力ある大学となるように、これからも頑張りますのでよろしくお願いします。それから、是非全学の皆さんの力でこの学内誌を育ててもらいたいと思います。

**山崎** ありがとうございました。我々職員もさらに魅力ある大学となるよう努力して参ります。



北京五輪壮行会で宣揚歌を歌う



創刊特別対談

# 地球環境問題を考える

(環境ジャーナリスト)

枝廣 淳子氏

(前筑波大学副学長)

× 泉 紳一郎氏



## イノセンスな人間の美しい面と そうでない面がせめぎ合う、それが環境問題

**泉** 大学広報誌の創刊号にあたり、筑波大学が現在、行政やつくば地区の研究機関と連携しながら全学的に取り組んでいる大きなテーマ「2030年までにつくば市の二酸化炭素排出量を50%削減する」に関連して、今日は環境ジャーナリストの枝廣淳子先生をお招きました。私自身、この取り組みに深く関わっていることもあり、枝廣先生とお話できる機会を楽しみにしておりました。今日は宜しくお願い致します。

**枝廣** 宜しくお願いします。

**泉** まず、枝廣先生が、地球環境問題という領域でご活躍されるようになったきっかけや経緯をお聞かせ下さい。

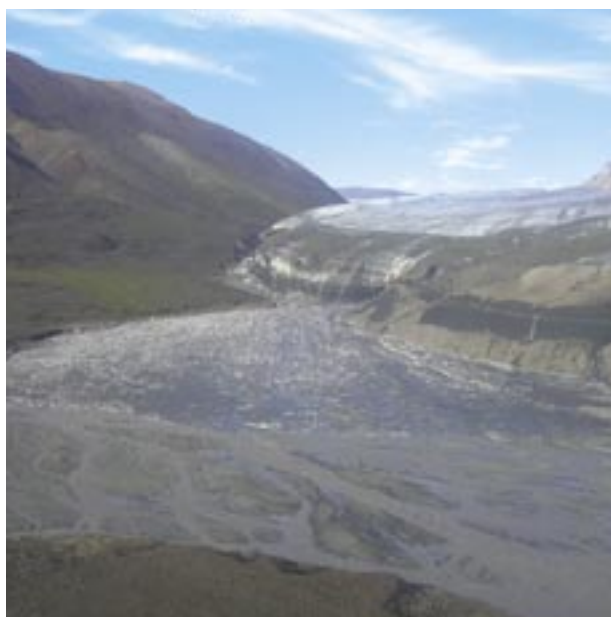
**枝廣** 私は、もともと人がなぜそう考えるのか、なぜ考えや行動を変えるのかといった、人間の心や行動もしくはその変化に非常に興味を持っており、大学時代は心理学を学んでいました。

その頃から環境に関心があったわけではなかったので、大学院を出てからはごく普通に就職をして、その後29歳の時に夫の留学でアメリカへ2年行くことになったことを機に、一生懸命英語を勉強して、帰国して通訳になりました。

通訳の仕事は、日替わりでコンピューターや医療分野など様々な領域の仕事をします。その中で、自分が最も興味を持って取り組んだ仕事が、教育と環境問題だったのです。

環境は、テクニカルにもいくらでも語れると思うのですが、私にはとても人間らしい問題に見えるのです。

人間の非常に近視眼的なところとか、強欲さとかが環境問題を起こす。一方で、何とか環境問題を解決しよう



2008年7月 カナダ エルズミア島氷河退行の様子 (提供：生命環境科学研究科 内海真生講師)



つくば3Eフォーラム会議の様子

と努力している科学者や企業、一般の人たちがいる。

イノセンスな人間の美しい面とそうでない面の両方がせめぎあう問題として、環境問題に興味を持ちました。

**泉** 私自身は、大学時代に学んだ原子力工学の基本的な背景としてエネルギーや地球環境問題に関心を持ってきましたが、枝廣先生は、環境問題の非常に本質的なところを捉えて携わってこられたということで、大変示唆に富んだ話であると思いました。

それらを踏まえ、今までのご自身の経験なりお立場なりから、地球環境問題に対してどのような認識をお持ちですか？

**枝廣** 例えば、現状として温暖化の問題やエネルギーの問題が起こっていますけれども、私は温暖化自体は問題ではないと思っています。

もっと深い問題があつて、温暖化はその症状の一つにすぎないということです。その深い問題を解決しない限り、たとえ科学の力で温暖化を解決しても、同じような問題が絶対に起こってくる。

その深い問題とは、現代社会が有限の地球の上で無限の成長を続けようとしていることだと私は理解しています。

例えば、地球が吸収できる二酸化炭素の量という限界にぶつかっているから温暖化が起きている。地球が持続可能に提供できるエネルギー量の限界を超えているからエネルギー問題が起きている。

これからは、有限の地球の上で私たちは生きているということを認識し、生きる上での価値観もしくは作法を変えて生きていく必要があると考えています。

今話題になっている排出量取引、それから炭素税にしても、有限の地球の上で生きていくためのルールとして、これから制定されるだろうと思います。そのような新しい作法とかルールを、全ての世代の人がきちんと理解していく必要があるのではないのでしょうか。

環境対策では、「できる・できない」より  
「どうあるべきか」

**枝廣** 世界の動きを見てみると、私は日本の大学の動きが非常に遅いことが気になっています。

例えばアメリカでは、400以上の大学の学長が、カーボンフリーのキャンパスをつくる、という宣言をしています。宣言した大学は何をするかというと、まず2カ月以内に関連Webサイトを立ち上げる。1年以内にCO<sub>2</sub>のインベントリを作成する。それから、2年間でカーボンフリーキャンパス計画を作成します。また、全学のカリキュラムに計画を継続させるためのシステムを導入したり、各計画やその進捗状況を定期的に公開報告します。

この動きの中でアメリカは、CO<sub>2</sub>を減らすことは当然だというマインドや考え方を持った学生を大量に輩出し始めており、今後、その卒業生たちが産業界に入ってきた時に、アメリカは大きく変わります。

**泉** 大学としての温暖化対策については、筑波大学でも建物の単位面積当たりのCO<sub>2</sub>を毎年2%削減する、という目標を策定していますが、その目標に対して全学



枝廣 淳子氏 [環境ジャーナリスト、翻訳家]

(有) イーズ代表、(有) チェンジ・エージェント会長  
NGO ジャパン・フォー・サステナビリティ (JFS) 共同代表  
首相の「地球温暖化問題に関する懇談会」メンバー  
東京大学人工物工学研究センター客員研究員 他

的な取り組みを通じて確実に達成するというのは、合意形成や資金確保などかなり大変なことなのですが…。

**枝廣** 環境政策で重要なのは、「できる・できない」よりも「どうあるべきか」だと思うのです。それがバックカスティング<sup>※1</sup>という考え方です。

みんなの合意を得るのは難しいとか、財政的な負担があるとかいうのでは、産業界の発言と全く同じで、2050年までにCO<sub>2</sub>排出量を60～80%に減らすとした福田ビジョンの目標は達成できません。しかも、これまでの積み上げ方式では絶対に達成できない。

では、どうするか？大学も全く同じです。

2050年に日本としてCO<sub>2</sub>排出量を80%に減らすとき、筑波大学はどれだけ減らしているのか。その一つの指標として、先ほど単位面積当たりと言われた様に、原単位の考え方があると思いますが、一方で、教育機関として、そのビジョンの掲げ方とか指標の取り方というのは、実は全て学生に対する教育になっている、つまり間接的に大きな影響力を有しているということをよく認識しなくてはなりません。

アメリカのカーボンフリーのキャンパスをつくる取り組みも、もちろん省エネをして減らしていくけれど、どうしても減らせない電気は残ります。カーボンオフセットという手を使ってゼロにしようとしているわけですが、例えば、研究機関として筑波大学が技術を開発するために電力を使ったとしても、その技術ができたおかげで社会の環境負荷を減らすことができる。だから、「大学の電力使用量はこれだけしか減らせませんが、筑波大学がこれだけ電気を使うことで日本全体の排出量をこれぐらい減らします」というくらい大きな宣言を出されても良いのではないかと思います。

**泉** そうですね。つくば3Eフォーラム<sup>※2</sup>のタスクフォースやつくば市の取り組みを支援するための議論の中で、筑波大学はそのようなアプローチの仕方をする必要があると思います。ただ、それこそ大学や各研究機関で知恵を出し合って取り組まないと、例えばどれぐらい日本全体のCO<sub>2</sub>削減に寄与するのか、といった評価の方法が難しいといえます。

**枝廣** 開発された技術を企業なりどこかが使ってCO<sub>2</sub>が減った場合、技術の開発元と技術を使った人の間でどう分け合うか等、難しい問題もあると思います。

一つ提案として、企業が何年も前から行っている環境会計<sup>※3</sup>のような考え方を参考にするのも良いのではないのでしょうか。

実際に筑波大学で導入できるかどうかは別として、筑波大学での3Eフォーラムなどの動きと併せて、筑波大学が日本の社会に対して行っている直接的・間接的なCO<sub>2</sub>削減の貢献を、もっと見えるようにしていくことだと思います。



革新的技術には、  
普及のための「革新的制度」を

**枝廣** CO<sub>2</sub>を減らそうとか、何か物事を変えていこうという時に、大切なことが三つあります。

一つ目は意識啓発です。なぜそうしなければいけないか、何をしなければいけないか、ということを広く広めていくことです。

二つ目が技術開発です。同じように使っても省エネ型電球だったら使用量が少なくて済むということなどです。日本はこれまでこの二つにはすごく力を入れてきていて、国民のほとんどが温暖化の問題を何とかしなければいけないと思っていますし、技術も省エネ技術、それから、再生可能エネルギーの開発を進めました。

日本が一番弱いのは三つ目で、それは仕組みを作るということです。啓発した行動を取りたくなる仕組み、開発した技術を普及するための仕組みがないから、太陽光発電もドイツに抜かれたりするわけです。別にドイツ国民の方が意識が高く、技術が上だったわけではなく、普及するための仕組み、つまり、発電コストより随分高い値段で20年間発電した電気を買取るという、固定価格買取制度を設けたからです。残念ながら、今の官僚は、政策というと補助金だと考えています。

これからは補助金よりも望ましい市場を作るための政策を作っていくといけません。

そういう政策を設計出来るプロを育てていかないと、例えば低炭素化に役に立つ技術を作っても、日本の中で使われないので、どんどん海外に買われてしまいます。それは、非常にもったいないことだと思うのです。

日本の環境政策として、そこにもぜひ力を入れて欲しいと思っています。

**泉** そうですね。つくばでも、環境都市の実現に向けて新しい技術の普及の仕組みについて、制度論的に何かをするという議論を具体的にこれから進めていかなければなりません、つくばには、普及させるための実際の現場と普及にかかわる行政、それから技術を持っている研究機関が全て揃っています。

今度は、その普及のための仕組みをどのように制度化するかということだと思っています。

**枝廣** 研究機関と行政が一所にあるということと、各主体がある共通の目的のために頑張るということは別物なので、共通の目的のためにみんなが頑張らざるを得なくなるような高い目標なり、目標達成のためのロードマップを作る必要があります。ドイツの固定価格買取制度も、日本政府はやっていませんが、滋賀県や佐賀県では県独自の制度として取り入れ、環境技術の普及率を伸ばしています。仕組みを変えるのは面倒なものですから、変えていこうという強い意識を高く掲げ

るということは絶対に必要です。

もう一つ、これはぜひつくばに気を付けてもらいたいと前から思っていることがあります。

研究機関が集まっていて技術開発ができることは非常に大きな売りだと思うのですが、一方、社会の中では「きっと技術が解決してくれるに違いない」という幻想が広がっているのです。これは世論調査の結果を見ても明らかです。

温暖化の問題も「そのうち革新的技術が解決してくれる。だから、自分たちは変えなくてもいいのだ」という幻想が広がっているのは、非常に危ないことだと思っています。技術もやるけど、みんなもやらなければいけない。この点に関して、つくばのように技術開発を行っている所は、気を付けてコミュニケーションしなければならぬと思っています。

**泉** 非常に耳の痛いお話ですが、技術開発も継続してやっていかなければならないことですし、例えどんなに良い技術であっても、ちゃんと使われないと意味がない。技術というのも、結局意識を変えていくためのある種の方法論の様なところもあるのではないかなと思っています。素晴らしい技術でも、使い方が悪ければ全然普及もしないし、それを通じて低炭素社会にも変わっていかないと思います。



泉 紳一郎氏 [前筑波大学副学長]

S52.4 科学技術庁入庁  
H1.3 在フランス大使館一等書記官  
H7.3 科学技術庁 原子力局核燃料課長  
H13.1 文部科学省 研究振興局振興企画課長  
H18.4 筑波大学理事・副学長  
H20.7 文部科学省 科学技術・学術政策局長

**枝廣** そうですね。今おっしゃったように、まさに革新的技術と並んで革新的制度も必要なのです。

新しいイノベーションが出てきたときに、どうやって社会に広がっていくか。それは「イノベーション普及理論」という考え方ですが、それを学べば、今はどの段階で、どういう人たちにどういう働き掛けをすれば広がっていくかというのがある程度分かってくるのです。

この理論を取り入れているところは日本にはありません。ですから、アメリカの大学の例のように、普及や教育にそういったプロセスをしっかりと取り入れていくことが重要だと思います。

### 大学内の制度改革の必要性

**枝廣** 今後、日本の教育機関にぜひお願いしたいのは、問題を個々に細分化する前に、全体像を把握するトレーニングを学生にしてほしいのです。

日本は最初から視野の狭い学問や研究に入ってしまう傾向があるので、それを後で結び付けていこうとしても、なかなか難しいのが現状です。なので、全体像を把握するトレーニングや教育を、教養・専門課程に入る前に学生みなさんに受けてほしいのです。

システム思考という物事のつながりをたどって全体像を見ましようという考え方ですが、こうした思考で全



体像を見るトレーニングをしてから個別の問題に入ると、今、自分がやっていることは全体の中のこういう役割だとか、世の中がこう変わってきたから自分の役割は相対的にこう変わるとか、そういう思考ができるのです。

**泉** 大学の先生方には各々の専門があるため、それを束ねて俯瞰できるような教育課程の構築は必ずしも簡単ではありませんが、筑波大学では、できるだけ文理共通科目のような科目開設なども目指していますが、専門を超えて俯瞰的視点を提供できるような人材をどうやって見つけていくかも課題です。

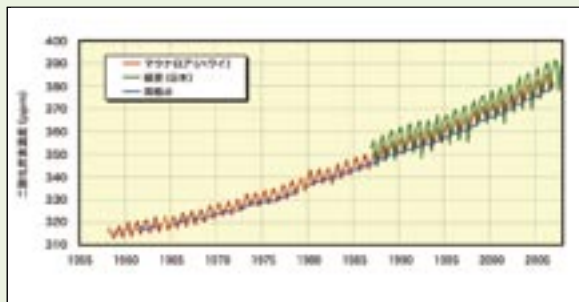
**枝廣** これは可能か分かりませんが、温暖化というのはある意味もう時間との戦いになってきているので、これまでみたいに大学の先生が自分が研究したいからするのだというだけではなくて、ある目的のためにグループをつくって、ここは自分がやるとか、ここは君がやるとか、みんなで進捗を確認しながらその目標なりビジョンに向かっていくような研究体制をつくっていかなければならないと思います。

しかし、現状として日本の大学の先生は、教授会から始まり、TAがやるような仕事も自分で全てやって、その上で論文を出して、学生も教育してというようでは、社会の中で自分のやるべきことを考える余裕がないのではないかと考えています。

真に大学の先生に機能してもらうには、その辺りを改善しないと難しいでしょう。

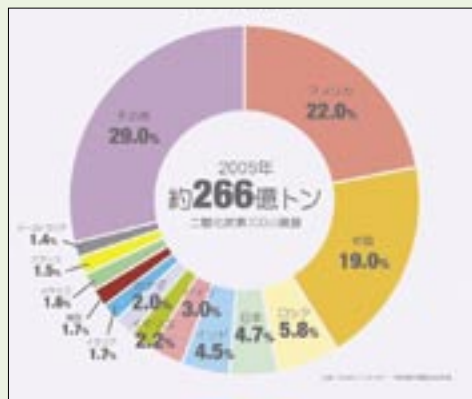
**泉** 私は大学では財務・施設といった管理運営部門を担当していますが、できるだけ最前線の先生方が教育研究に専念できるようにどう体制を構築するか、ある

大気中の二酸化炭素濃度の経年変化



出展) 気候変動監視レポート2007

世界の二酸化炭素排出量



出展) EDMC/エネルギー・経済統計要覧2008年版





いは大学の運営・経営をやっていくかが、われわれの部門の非常に重要な役割だと考えています。

**枝廣** そのためには、何をもって大学の先生の貢献を測るか、という人事評価の仕組みを考える必要があります。法人化を機に、大学を見る社会の目が厳しくなっていますが、その厳しい目を今度は大学の先生たちに転嫁していけるかどうかだと思います。

**泉** そうですね。筑波大学も大学独自の取り組みとして、教員評価というのを試行的に始めているので、それらを通じて、目指すところに向けて変えていく必要性を感じています。

**枝廣** それから、もう一つ大学として力を入れてほしいことは、社会との関係性をつくったり、社会に対してコミュニケーションしていくスキル・能力・人材の不足を解消し、社会に対してきちんと自分たちの取り組みやその意味をアピールし、理解してもらうようにしていくことだと思います。

単に一方向的なコミュニケーションではなく、3Eフォーラムで取り組んでいるような、インタラクティブもしくはそれ自体が社会に影響を与えていくような共創型コミュニケーションにも、きちんと取り組んでいかないといけないと思います。

筑波大学は、研究機関として非常に先端を行っているし、ましてや他の研究機関と一緒に活動できる状況にもあると思いますので、日本だけでなく世界を引っ張っていくような今後の活動とその発展に期待しています。

**泉** ありがとうございました。

※本対談は平成20年7月3日(木)に行われました。

## 対談に立ち会って

神戸 麻美子 かんべ まみこ

[生命環境科学研究科2年]

つくば3Eフォーラム等の活動を学生の立場からサポートする組織「3E cafe プロジェクトチーム」のメンバー。様々な環境問題について語り合う「3Eカフェ」開催にも取り組む。本対談では、編集作業を担当。



環境分野に興味を持ち始めてから、枝廣さんとお会いするのが私の夢でした。そして、3Eカフェ等の活動を通じて出会った多くの方々のおかげで、その夢を叶えることができました。

このような貴重な経験をさせて下さった方々に心から感謝しています。

本対談後、枝廣さんと直接お話させて頂いた中で印象に残ったことがあります。それは、「伝えたい相手によって伝え方を変える」ことの重要性でした。

大学も自ら発信する情報を、よりの確により多くの方に受信していただけるよう、日々模索しながら進化しているのだと思います。

これからの筑波大学を、皆さんが情報の受信者として、そして自ら発信者として、より大きく成長させていけたらと願って止みません。

## 用語解説

### ※1) バックカスティング

理想的なあるべき姿を描き、現状とのギャップを埋めていくための取り組みや政策を進めていくのが「バックカスティング」と呼ばれる考え方です。環境問題等の政策立案、また自己実現など、様々な分野で取り入れられています。

参照：「日刊温暖化新聞」

[http://daily-ondanka.com/edahiho/2008/20080207\\_12.html](http://daily-ondanka.com/edahiho/2008/20080207_12.html)

### ※2) つくば3Eフォーラム

筑波大学、茨城県、つくば市、筑波研究学園都市の4研究機関が連携して、昨年10月に設置しました。「2030年までにつくば市の二酸化炭素排出50%削減」を目標に掲げ、「3E(環境Environment, エネルギーEnergy, 経済Economy) シティーつくばモデル」の構築と普及を目指しています。新エネルギー技術や都市システム等に関するタスクフォースで、具体的なアクションプランを検討してきました。今年6月から筑波研究学園都市交流協議会つくば3Eフォーラム委員会として活動しています。

参照：「つくば3Eフォーラム」

<http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~eeeforum/index.html>

### ※3) 環境会計

企業等の組織が、環境に対する社会的な責任を果たしつつ、環境保全への取り組みを効率的かつ効果的に推進していくことを目的として、事業活動における環境保全等のコストとその効果を把握し、可能な限り定量的(貨幣単位又は物量単位)に測定し伝達する仕組みのことです。

参照：「環境省」

<http://www.env.go.jp/policy/j-hiroba/04-2.html>



## 座談会

# 筑波スタンダードを どう活かすか

本学の学士課程の教育宣言を「筑波スタンダード」として今年3月に広く社会に公表しました。教育目標、達成すべき水準、教育の質の保証等、学士課程教育の実際について「目に見える形」で示したものであり、全学的にまとめられたものは他大学において例がなく、学外からも非常に高い評価を受けています。今後は、筑波スタンダードを更に充実・発展させるとともに、これをプラットフォームとして、教育の質の向上を図ることとしています。

### ◆筑波スタンダードは学士課程の教育宣言

**石田** 司会の教育企画室長の石田です。「筑波スタンダード」がようやく完成し、これからどう活用していくかということが問われています。今後の活用方法、あるいは課題等に関して、先生方の忌憚のないご意見をいただきたく、よろしくお願いいたします。

最初に、工藤先生にこの座談会の趣旨説明をお願いしたいと思います。

**工藤** 本学の運営方針や主な施策、学内の各組織や教職員の活動状況、社会貢献などの情報や認識の共有化を図る目的で新広報誌が発行されます。そういう中で「筑波スタンダード」が公表されましたので、新しい広報誌を通じて、是非、全学の教員・職員に理解を深めて

いただきたいという趣旨で、この座談会を設けました。

今日いただいたご意見も踏まえ、次年度に向けて、スタンダードをより良くするための見直しをしたいとも考えています。

**石田** ありがとうございます。それでは早速スタンダードについての議論を始めたいと思いますが、その前にスタンダードについて少し説明させていただきます。

一言で言うと「筑波スタンダード」というのは、筑波大学の学士課程の教育宣言です。宣言という言葉には、今あるものだけではなくて、ちょっと背伸びしたところを目指して、プラットフォームにしたいという意図があります。そのために、「建学の理念」の精神を踏まえて作成しました。この中にはスタンダードの作成に携



わった先生方もおられますが、非常に書きにくいところもあったかと思います。その辺の苦心や、大変だったことなども聞かせいただければと思います。

## ◆スタンダードのターゲットは社会、学生の親・友人、高校の先生、企業

**谷本** 「筑波スタンダード」は普段から聞いている話ですし、実際に我々の取り組んでいることであって、「ああ、そうだな」という感覚をまず持ちました。それから5つの教育目標をベースに、各学類のスタンダードが作成されているのだなと思いました。ただ、公表の目的というか、何のために作っているかという部分がまだわかりにくいような気がします。



● 学士課程における教育組織図

**工藤** まず、ターゲットはどこかということです。入学案内や学類案内と内容が似ているのではないかと思います。入学案内や学類案内のターゲットは高校生です。それに対して、スタンダードは入り口のところではなく、社会に向けて公表しているものです。

広い意味では社会に向けて公表していますが、在学生の親、友人、高校の先生や就職先の企業などをターゲットとしています。これら学外向けのほかに、学内向けとして在学生には4年間、どういう教育方針の下で学んでいくかを俯瞰できるものとして使っていただきたいです。教員には大学の教育方針、学群・学類の教育目標、あるいは全体のカリキュラムの中での自分の位置付けなどを、「筑波スタンダード」を見て分かっていただきたいのです。

また、入り口でも、高校の進路指導の先生たちには是非スタンダードを見てほしいと思っています。このように、スタンダードは入学案内等と一部ターゲットがオーバーラップするところもありますが、どこを向

いた資料なのかということ、まず先生方には是非ご理解いただければと思います。

**新井** その辺りのことなのですが、どこを一番のターゲットとして配付するかというのが少し曖昧な感じがしていました。スタンダードを作成する段階で、高校生ではなく在学生、卒業生、社会と言われており、スタンダードを配付するに当たって、どのように配付すればいいのか疑問でした。

**石田** 筑波大学ではいろいろ良い教育を行っているにもかかわらず、それが必ずしも社会一般に伝わっていないところが結構あるのではないかと思います。こういう時代ですから、やはりアピールすることが非常に重要だろうと思います。広く言うと社会一般なのですが、ありていに言うと、意欲のある学生、卒業生を受け入れてくれる企業であったり、高校、あるいは予備校等の進路指導を担当されている先生方、親だと私は理解しています。

## ◆「学生がこのように育ちます」ということが教育目標

**安信** スタンダードの印象ですが、全部の学類が同じ体裁でまとめられており、総合大学の多様な教育方針、教育内容が良くまとまっていると思います。我々の工学システム学類はJABEE審査の認定基準を考慮し教育を行っていますので、学類の教育点検改善（PDCA）委員会が中心となり、特に苦勞なく作成できたと思います。ただ、当初「筑波スタンダード」の意味が良く理解できないところがありました。誰が誰に対して書いているのか、主語がわかりませんでした。でも、作業を進める中で、表現は良くないかもしれませんが、「学生の品質保証書」だという理解に達しました。

### 五つの教育目標

- ❖ 本質を究める確かな基礎力と柔軟な思考力に裏打ちされた創造性を養う
- ❖ 国際的な活躍の礎となる豊かな教養とコミュニケーション力を育む
- ❖ 芸術やスポーツに親しみ、優れた文化的営みに感動する力を養う
- ❖ 自然と人間を慈しみ、積極的に社会に貢献する態度を育む
- ❖ 生涯を通して学び、自律的に自己を成長させ続ける力を養う



工藤 典雄（教育担当副学長）



石田 東生（教育企画室長、学長特別補佐、教授）

工藤副学長を補佐して、「筑波スタンダード」をとりまとめ

**溝上** 何らかの評価を受ける経験があると、教育目標というのを考えることがスムーズに行くのではないのでしょうか。現在、大学設置基準により「大学は、各教育組織ごとに人材養成の目的を定め、公表する」とされましたが、多くの先生がこのことを知らないのではと思います。その中で、「筑波スタンダード」という形で、各教育組織が議論できたということは、結果としていい作業をしたと思います。

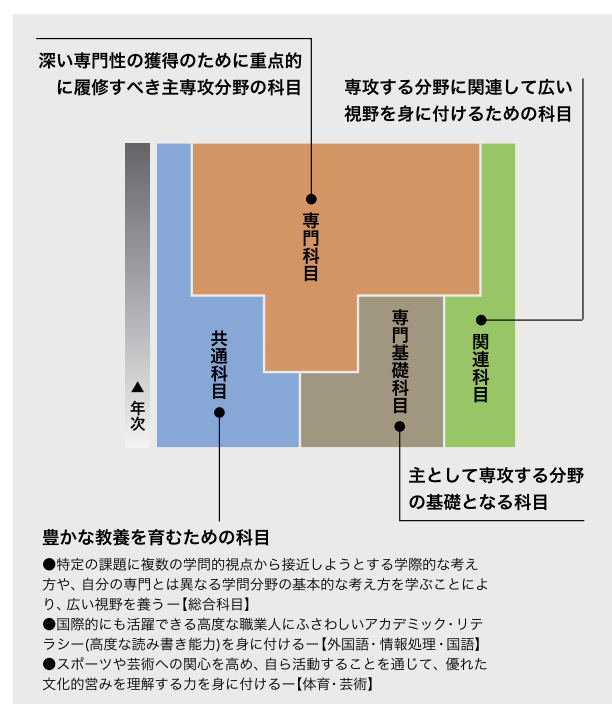
次に、大学全体の教育目標が5つ挙がっていますが、各学類の教育目標とどのように合致しているのかがよくわかりません。各学類の教育目標はこの大学全体の教育目標を踏まえて作成されるという流れが、作業時に必要だったのではないのでしょうか。

また、大学全体の教育内容・方法、達成すべき水準、教育の質保証も是非作っていただきたいと思います。今回のスタンダードにより学類は説明出来ると思うのですが、「筑波大学」としてはどのような教育がセールスポイントなのか、この「筑波スタンダード」では必ずしも明確ではないと思っています。

**石田** きちんとした構造的なものはちょっと無理だったのですが、考え方としては、あるいは実際に書かれているものとしては、決して5つの教育目標と相矛盾するようなことは書かれていません。それを下敷きにして、さらにその上に各学群・学類の特色を教育目標として記載していただいているのかなと考えています。

**工藤** スタンダードを作ることによって、学群・学類のカリキュラム構造の共通基盤を作ることができたと思っています。

**大倉** 先ほど、「宣言」だから若干背伸びしたとおっしゃったかと思いますが、私の語感では、「宣言」というのは「志（こころざし）」がなければいけないと思うのです。しかし、このスタンダードには「志」があまり感じられません。大学の現状説明は沢山出ていますが、「志」なのだから、やはりもっとこうしたいということを書くべきだと思います。そこが書ければ、すぐに見直そうなんていう話は出てこないはずですし、「志」に近づけるためにどうするかという議論が出てくるとと思います。冒頭に、次年度に向けてスタンダードを見直すというような話がありましたが、来年すぐ



●明確な科目区分と楔形のカリキュラム構造図





新井 達郎（化学類長、教授）

学類長としてスタンダード作成に携わる



大倉 浩（人文学類、教授）

人文学類卒業、人文学類スタンダード作成WGのメンバー

全く違うものに変えるべきではないと思っています。

**工藤** 全く違うものに変えるべきではないということはその通りです。しかし、表現を変えるとか、細かい修正など、不十分なところもあるので、そういうところは見直しが必要ではないでしょうか。

**安信** 見直しという件ですが、我々はJABEEで認証評価を受けていますが、理由があれば見直していくこととしています。

また、「志」と「教育目標」の違いは、主語が誰かということであり、学生が何を身に付けるかということが教育目標なのです。最初は「こんな良い教育をします」という志的なところが教育目標であると考えていましたが、現在は、「学生がこのように育ちます」ということが教育目標であるということと理解しています。

**石田** 「志」に実態がついてくるように、知恵を出し合って議論しながら、スタンダードをどう良くしていくかがこれからの課題ですね。

## ◆卒業後の進路があることによって方向性が見えてくる

**石田** 一番悩んだのが、卒業後の進路の記載です。本来的には教育目標や内容、方法を踏まえて、進んでほしいところを書くべきだと思うのですが、まだそこまではいっていないということです。

**溝上** 教育目標や方法、達成すべき水準、教育の質の保証は望ましい方向を議論して打ち出していると思い

ますが、卒業後の進路だけは現状が示されており、少し方向性の違う情報が入っているという印象を受けます。

**工藤** それで、進路先はちょっと背景の色を変えて示してみました。ただし、進路指導に一番役に立つのは卒業後の進路のようで、大学全体の状況を比較できる形に示したことは高く評価されているようです。

**谷本** 学生の達成すべき水準は、学類によって分かりやすい学類と分かりにくい学類があります。

例えば、医学類、あるいはJABEEの認定を受けている工学システム学類などは、達成すべき水準がある程度、客観的に分りますが、曖昧に書かざるを得ない学群・学類もあります。そうした時に、卒業後の進路があることによって、具体的に方向性が見えてくる部分もあるかなと思いながら、私は読んでいました。そういう意味では進路先というのは有益な情報だと思います。

**新井** 卒業後の進路の件ですが、現実にはこのような結果になりますが、これは別に教員がこういう進路に進ませるというのではなくて、学生がこういう道に行きたいと言ったら、どこにでも行けるような学生を育てることが我々の務めと思っています。ですから、進路に対する目標、例えば資格試験に何人合格させますというような目標は、多くの学類では立てにくいと思うのです。そのため、学生の資質をとにかく高めるためにいろいろなことをやっています。その結果がこれですという意味では、私はこれでいいのではないかと考えています。



谷本 啓司（生物学類、准教授）  
農林学類卒業



安信 誠二（工学システム学類、教授）  
学類長（当時）としてスタンダード作成に携わる

**石田** 進路のところは結構いろいろ工夫していて、人文・文化学群はマスコミ・出版が最初であつたり、障害科学類は福祉系が最初にあつたりなど、それなりに工夫はしてありまして、どういうところにも行けるような人材を育てたということは、にじみ出ていると思います。

### ◆「筑波スタンダード」をいかにグローバルスタンダードに近づけるかが大事

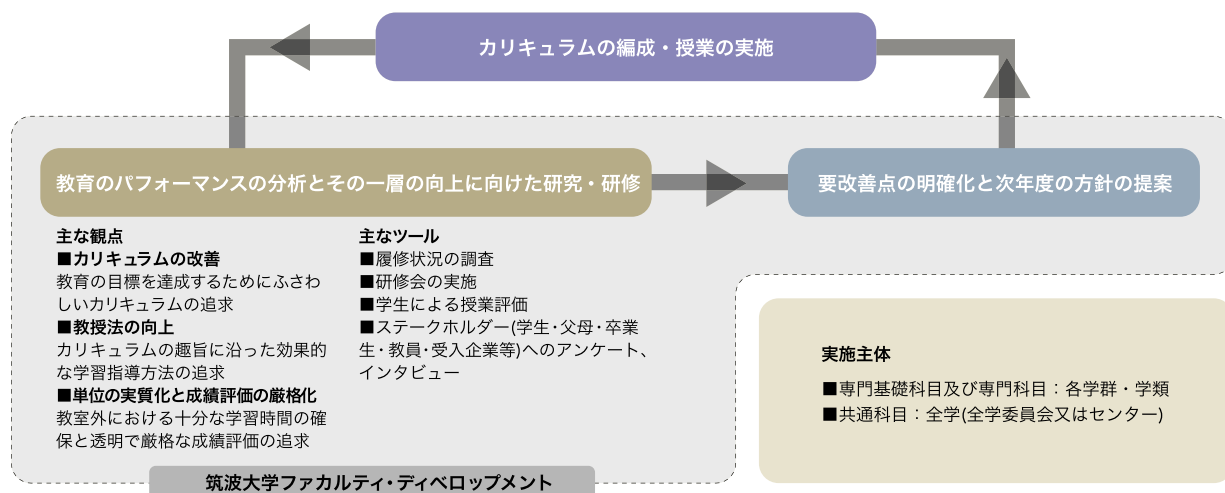
**石田** 今後のことで何かありましたら。

**新井** クラス連絡会は代表者10人ぐらいの会合もあれば、全学類生を対象にしたものなどいろいろな形で開いています。でも、スタンダードを渡すだけでは分か

らないと思うので、少人数のクラス連絡会を開いて、説明会をやってみようかなと思います。人に渡すときには、ポイントだけでもちょっと話をすることが必要と思っています。

**安信** 学生たちが就職する時、自分たちがどういう教育を受けたのかというよりどこかとして、やはりスタンダードは必要だと思うのです。うちの学生はこういう教育を受けていますと企業に配って、意見のフィードバックを受けたいと思います。

**大倉** 改組されて学群の名称が変わったところなので、そういう意味では表紙の9つの窓は分かりやすいです。また、学群・学類版で専門の方向を示しつつ、大学版という形で共通を示すということは、まさに高い志が



●筑波大学ファカルティ・ディベロップメントのメカニズム図





溝上 智恵子 (知識情報・図書館学類長、教授)

人間学類卒業、筑波大学FD委員会委員長

必要です。今日のお話でその志が段々見えてきましたが、一方で学群・学類では専門性を推し進めつつ、全体のことも考えるというのは、これはどう調和していったらいいのか、疑問でもあります。

**工藤** 大変難しいことですが、「幅広くて深く」というのは、日本の高等教育のトレンドだと思うのです。また、5年、10年先を考えたら、「筑波スタンダード」をいかにグローバルスタンダードに近づけるかが大事だと思っています。

**石田** 今後の活用方法としては、課題認識の共有化というところから始めないといけないと思っています。今日いただいたご意見には、「志」から、非常に具体的な水準の話とか、今日、明日の話から、5年、10年先の話などいろいろなものがあります。そういうものに関して、スタンダードの良い活用方法がありましたら、ぜひ承りたいと思います。いかがでしょうか。

**溝上** 教員が種々議論して、教育目標や達成すべき水準を書いたわけですから、次のカリキュラムの見直し時には、大変重要なツールになると思います。

**谷本** 例えば卒業後、大学院に進学して研究する時に、どのような水準を達成してほしいかを考えた場合、基礎知識と発想力・創造力の大きく2つに分かれると思うのです。それが書かれているのかを見ますと、教育目標の最初がまさしくそのとおりなのだと感じました。

ただし、知識・教養という部分はある意味、このようにきっちり決めていていいかもしれませんが、後半の

創造ということになってくると、違う見方も必要なのかなと。スタンダードにどこまで盛り込めるのか、疑問の部分もあると感じています。

**工藤** 「筑波スタンダード」はいろいろな意味で、まだまだ不完全な部分が多いと思います。対象をもう少しはつきりさせること、学生や教員に対してはそのままでは読まれないので、フレッシュマン・セミナー、FDを積極的に利用して理解してもらうことなどが必要という気がします。また、学生や教員が気軽に手にとって自由に使えるようになることが望ましいと思っています。

**石田** FDという話が出ましたので、溝上先生、何かそれに関連してコメントなどがありましたらお願いします。

**溝上** 筑波大学のFDは、個人の教員レベルでは非常に熱心に取り組んでいただいておりますが、組織としてなかなか目に見える形にはなっておりません。ですから、筑波大学はFDを頑張っていますということがなかなか外部に伝わらない。この点が一つの大きな課題で、そのためにも、筑波大学がどのような大学で、どのような方向を目指しているのかを示している「筑波スタンダード」をFDにも積極的に活用していきたいと思っています。

**石田** ありがとうございます。これを一つの契機にして、教員、職員、学生と共有化を図りながら、「筑波スタンダード」だけではなくて、教育そのものをより良くするために頑張っていければと思っています。

いろいろとお力添えをお願いする場面も多々あるかと思いますが、よろしくお願い申し上げます。



## 平成19事業年度 財務諸表の概要について

### 国立大学法人会計の特徴

国立大学法人が財務諸表を作成する目的は二つあります。一つ目は、法人の運営状況や財政状態を適切に表すこと、二つ目は、業務実績の評価に用いる情報を提供し、事業の効率化に役立てることです。

国立大学法人は、主たる業務である教育研究が利益の獲得を目的としないため、企業会計とは異なり、費用と収益が均衡する仕組みが取られています。資産の減価償却費という費用勘定に対応して、資産見返負債の戻入という収益勘定を計上することがその一例です。

損益計算書における「収益」は法人化前の官庁会計における「収入」とは異なり、その要因が発生した時点で計上するため、現金の流れだけでは見えない活動も反映しています。

### 貸借対照表

貸借対照表 (Balance Sheet) とは、財務諸表の一つで、国立大学法人が保有する「資産」、返済の義務がある「負債」、返済が不要な基礎的財産を表す「純資産」から成り立っています。これにより、決算日における財政状態を明らかにしています。

本学の資産の総額は約3,500億円で、その大半は土地 (2,500億円) と建物 (600億円) です。資金の運用による資産の増加と借入金の返済による負債の減少により、安定的な財政運営に努めています。

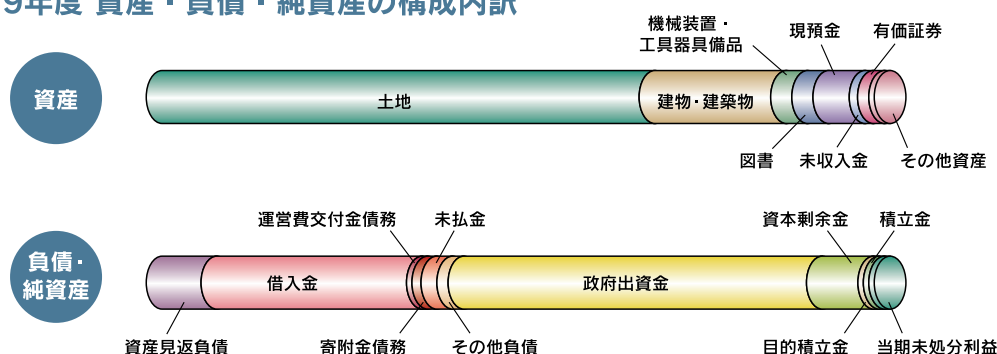
勘定科目	平成18年度	平成19年度	増減
<b>資産の部</b>	351,623	352,345	722
土地	249,725	249,725	0
建物・構築物	60,605	60,509	△ 95
機械装置・工具器具備品	8,946	9,020	75
図書	9,371	9,483	112
現金及び預金	16,822	14,045	△ 2,776
未収入金	2,990	3,342	352
有価証券	1,594	4,094	2,500
その他資産	1,570	2,126	556

勘定科目	平成18年度	平成19年度	増減
<b>負債の部</b>	100,742	96,134	△ 4,608
資産見返負債	16,140	17,546	1,407
借入金	62,933	58,065	△ 4,868
運営費交付金債務	1,248	1,623	374
寄附金債務	2,371	2,644	272
未払金	11,628	9,484	△ 2,144
その他負債	6,421	6,771	350

勘定科目	平成18年度	平成19年度	増減
<b>純資産の部</b>	250,881	256,211	5,331
政府出資金	232,964	232,964	0
資本剰余金	13,201	17,178	3,977
目的積立金	1,535	2,209	675
積立金	1,128	1,937	809
当期末処分利益	2,053	1,923	△ 130

(単位未満で四捨五入しているため、合計額等と合わない場合があります) (単位: 百万円)

### ■平成19年度 資産・負債・純資産の構成内訳





## 平成19年度決算のポイント

附属病院収益、受託研究等収益、補助金等収益とも大幅に増加し、教職員の皆さんの努力が数字にも表れています。今後の課題は、寄附金の獲得戦略を見直し、外部資金の割合を増加させることです。

施設費収益が大幅に減少していますが、18年度に国から財源措置された校舎・学生宿舍等の改修(アスベスト対策工事)が完了したためです。それに対応して、教育経費、教育支援経費が減少しています。

財務諸表の詳細については、[www.tsukuba.ac.jp/public/misc/teikyo\\_22.html](http://www.tsukuba.ac.jp/public/misc/teikyo_22.html) を参照ください。

### 損益計算書

損益計算書 (Profit and Loss Statement) とは、収益から費用を差し引いた金額を利益として表示する報告書です。これにより、一定期間における国立大学法人の運営状況を明らかにしています。

本学の事業規模は約700億円です。運営費交付金収益は減少していますが、自己収入の増加や経費の節減等により、約19億円の当期総利益を計上しています。

なお、当期総利益には資産購入に係る借入金の元本償還額と当該資産の減価償却費との差額などの会計処理上の利益が含まれているため、実際に事業に活用できる金額は約8億円弱となります。

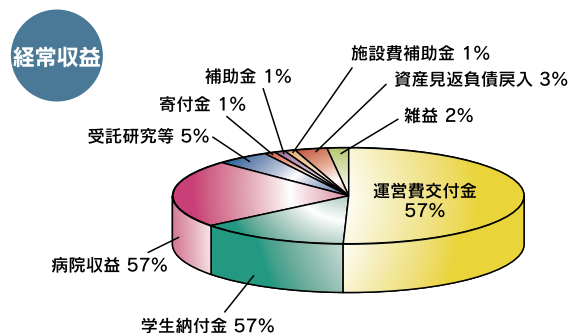
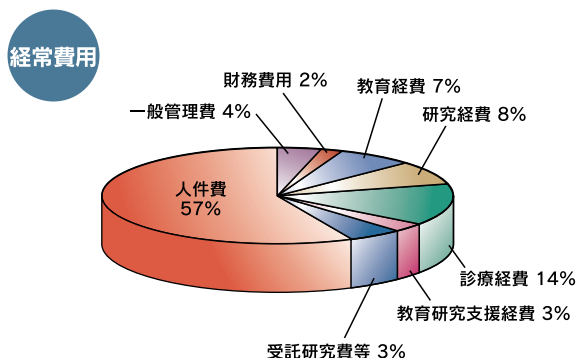
勘定科目	平成18年度	平成19年度	増減
経常費用	71,852	70,870	△ 982
教育経費	5,967	5,059	△ 908
研究経費	5,802	5,759	△ 43
診療経費	9,526	10,091	564
教育研究支援経費	2,627	2,001	△ 625
受託研究費等	2,815	3,300	485
人件費	40,770	40,547	△ 223
一般管理費	2,880	2,695	△ 185
財務費用	1,457	1,385	△ 72
雑損	9	33	24
臨時損失	69	12	△ 57

当期総利益	2,053	1,923	△ 130
-------	-------	-------	-------

勘定科目	平成18年度	平成19年度	増減
経常収益	73,812	72,701	△ 1,111
運営費交付金収益	37,376	36,590	△ 786
学生納付金収益	9,990	10,033	43
附属病院収益	16,166	16,883	717
受託研究等収益	3,102	3,781	678
寄附金収益	821	842	21
補助金等収益	350	487	137
施設費収益	2,704	393	△ 2,311
資産見返負債戻入	2,087	2,131	44
財務収益	23	50	28
雑益	1,193	1,511	318
臨時利益	45	13	△ 31
目的積立金取崩額	117	89	△ 27

(単位未満で四捨五入しているため、合計額等と合わない場合があります) (単位: 百万円)

### ■平成19年度 経常費用・経常収益の構成内訳



## 研究基盤総合センター

ゆりのき通りを南から北へ。大会館を過ぎ、平塚線の高架を下ると左側に不思議な形の高くそびえ立つ建物が見えます。そこが、研究基盤総合センターの応用加速器部門です。同センターは、基盤的な共同利用科学研究設備を適切に管理・運用することにより、本学の研究・教育支援体制の整備を行うとともに、学際研究の発展、先端的研究の創設に寄与することを目的に設置されました。

応用加速器部門を始め、低温部門、分析部門、工作部門の四つの部門からなり、教員14人（センター長、部門長を含む）、職員4人（アイソトープ総合センターも担当）、技術職員18人が担当しています。松内一雄センター長は、「筑波大学の貴重な財産としての本センターを多くの研究者や学生に活用してもらうため、ユーザーの立場に立った支援を行っています。気軽に訪ねてほしい」と話しています。



高電圧発生タンク



プラズマ質量分析装置

### ■応用加速器部門

応用加速器部門では、最高電圧1,200万ボルト及び100万ボルトの2台の静電加速器から得られる高速イオンビームを利用して、基礎物理の分野にとどまらず、地球・宇宙環境、ナノ工学、照射加工技術など幅広い分野の研究が行われています。例えば、加速器を利用した年代測定や環境変動調査も可能なことから、南極の深部の氷を測定し、約70万年に及ぶ地球環境変動の研究も進められています。

また、平成19年度から開始された文部科学省「先端研究施設共用イノベーション創出事業」の一つとして、「高度制御加速イオンビーム産業利用によるイノベーション創出事業」が進行中で、複数の有力企業の研究者がイオンビームの産業利用を行っています。その中では、宇宙機器用半導体部品のテストと改良に向けたイオン照射試験も実施しています。

### ■分析部門

分析部門は、最先端の高性能大型分析機器及び汎用機器を集中的に管理し、教育・研究の用に供しています。利用の種類としては、利用者が分析を依頼し、本部門の職員が分析した結果をお知らせする「委託分析」6種と利用者自身が操作運転（講習が必要）して研究を行う「共同利用」25機種があり、それぞれ利用料が定められていますので、事務室までお問合せください。

平成19年度の利用研究室数は63研究室（17専攻・組織）に上り、新井達郎部門長は「これらの利用者のほとんどは学群4年次、修士課程、博士課程に所属する学生であり、彼らの学位論文研究の推進に大きく寄与しています。将来に向かって教育及び研究の高度な支援を可能とするべく、努力して行かなければならない」と話しています。

磁気共鳴装置



パスで、東京ディズニーランドと東京ディズニーシーを合わせた面積の約2.4倍の広さを誇ります。広いキャンパスにはその組織や施設が、どのような目的で設置され、どのようなことをしているのかなど、各号で紹介していきます。



大型ヘリウム液化装置



小型のNCフライス盤。コンピュータ制御によるフライス切削作業が、会話型のパネルにより容易にできる新鋭機。



リアクター（工作部門制作）

## ■低温部門

液体ヘリウムは $-269^{\circ}\text{C}$ 以下でしか存在できない、あらゆる物質の中で最も冷たい液体です。このような極低温の世界は、金属の電気抵抗値が完全になる超伝導現象をはじめとして、超流動、量子ホール効果、ジョセフソン効果など常温ではおよそ考えられない様々なおもしろい現象の宝庫です。

低温部門では、この液体ヘリウムを製造し研究者に提供するとともに、超低温・強磁場に代表される大型の低温機器を備え、共同利用装置として研究者のみなさんに開放しています。

低温部門の利用者は年間のべ1万人以上、液体ヘリウムの年間供給量は8万リットルにのぼり、その利用は理工学分野ばかりでなく、生体の凍結保存、核磁気共鳴装置、MRI装置など生物学、化学あるいは医学の分野にまで広がっています。

## ■工作部門

工作部門では、機械工作とガラス工作において、研究用装置作製と技術教育支援の役割を果たしています。大学では、何事にも独創性が売り物で、ユーザーの依頼は一品生産が多く、他の何処にもない独自の物づくりが生命です。このような特殊性から、ユーザーと加工に携わる技術職員との連携が重要な要素となり、学内において工作の専門家が製作担当することにより、小回りの利く実験試作工場として、研究をより迅速に推進するための支援体制を整え、理工学のみならず、医学、体育、芸術などの分野への支援も行っています。

同センターの石川健司技術職員は、「窓口（京藤康正准教授・内線2526）では、工作の依頼や相談を受けるとともに、同部門が保有する各種材料（金属やガラス他）の支給も行っています。また、ガラス工作と機械工作の実習も行っていますので、希望者はお気軽に窓口へどうぞ」と多くの利用を呼びかけています。

# 「日本の初等教育のパイオニア」 筑波大学附属小学校



## 135年の歴史を誇る

地下鉄丸ノ内線「茗荷谷」駅から徒歩7分の地に附属小学校はあります。各学級定員40人で、一学年4学級、全24学級で全校児童数960人、教員数36人、職員数4人の学校です。

歴史をたどると、明治6年(1873年)東京都神田宮本町、旧昌平黌あとに、師範学校練習小学校として設立されました。その後、明治35年(1902年)東京高等師範学校附属小学校、昭和24年(1949年)東京教育大学附属小学校とその名称が変わり、昭和53年(1978年)には筑波大学附属小学校となり現在に至っています。

## 小学校でも教科担任制

附属小学校では、「教科担任制」を実施しています。一般の小学校では「学級担任制」が基本で、中学校以上になると「教科担任制」が採られています。附属小学校では、学級担任を置きながら教科担任制を導入し成果をあげてきました。「教科担任制」が必要な理由は、①教科教育の授業充実のため、②子どもの学力向上のため、③子どもを多様な目で見守るためです。これらの考え方は2002年に文部科学省から出された「確かな学力向上のための2002アピール」にも盛り込まれ、その実験のための予算化も図られています。

## 心身ともに健全に「全人教育」

また、子どもへの教育は、「教科教育」ばかりではなく、「全人教育」を目標とし、児童の心身共に健全な発達を目指しています。野外の体験学習などもたくさん取り入れ、山の合宿、海の合宿等々、児童1人が卒業までに7回の3泊4日の合宿を体験します。

## 1,200号を超える月刊誌「教育研究」

これらの成果は、1904年以来営々と附属小学校の教員が全国の教員を対象として発行している月刊誌「教育研究」に発表されています。創刊号には、講道館柔道の創始者である高等師範学校長の嘉納治五郎先生の祝辞も掲載され、「一意潜心研鑽に研鑽を重ね、超凡卓絶の題材を公にして、教育社会を光被する」ことを望まれ「量より質」を大切にと言われています。「教育研究」は、1,200号を超えるに至っています。

## 全国から数千人が訪れる教育拠点校

附属小学校では、古くは現職教員を対象とした「訓導協議会」が行われ、現在でも、国語、算数、社会、理科、生活科、音楽、図工、家庭科、体育、道徳、総合活動など6月と2月の2回にわたって「学習公開」「研究発表」「研修会」が開催されます。全国から年間数千名の現職教員が研修に訪れる日本一の現職教師教育拠点校です。

これらの取り組みが、今年から試行された教員免許更新制に大いに役立ちました。30時間という受講時間の6時間分を全国で唯一、筑波大学だけが附属学校で実施しました。教員免許更新を筑波大学で受講する約半数の教員が、「〇〇科の課題と展望」という6時間の講座を受講しました。

## 初等教育モデルの創造

附属小学校は、設立以来130余年にわたって、初等教育の授業に関わる目的・方法・評価の実践的研究を行ってきましたが、これからも日本の初等教育のモデルを創造し続けていきます。



いずれもそれぞれの分野で我が国の教育をリードしています。

伝統校である筑波大学附属小学校を紹介します。



『教育研究』



レオナルド藤田嗣治氏の  
小学校時代の絵『附属の小僧』

### ◆附属小学校への期待 附属小学校の今後の取り組みや期待を「日本の算数教育をリードする」附属学校教育局の坪田耕三教授（前附属小学校副校長）に伺いました。



坪田 耕三教授  
〔前附属小学校副校長〕

附属小学校を訪れる現職教員は国内外から数多く、後を絶ちません。それは、この学校の「授業」をモデルにしようとする積極的な先生方によるものです。

現代のような時代では、「授業」そのものの在り方が変わらなければなりません。知識伝達の場に終始してはインプット能力に長けた子どもしか育てられないからです。これからの時代は、ぜひとも「授業」が知識創造の場となるようにしたいものです。それは、子どものアウトプット能力の育成を期待してのことです。「授業」は「伝達型」から「創造型」へ変革しなければなりません。

この期待に添えるように常に新しい授業方法と教材を創り出すことは容易ではありませんが、それが使命であると心得、全教員が一丸となって前進していくことが大事です。

都心とは言え、元東京教育大学本部のあった「占春園」の森に囲まれた自然豊かなところに毎日千人近くの子どもの元気な声が響いております。この子らが全世界の豊かな将来へ役立つことを期待しています。

### ◆各界で活躍する数多くの卒業生を輩出

#### 学界

森 亘（元東大総長）昭和13年卒  
石 弘光（元一橋大学学長）昭和25年卒

#### 政界

鳩山 一郎（元内閣総理大臣）明治28年卒  
宮澤 喜一（元内閣総理大臣）昭和7年卒

#### 経済界

石川 六郎（元鹿島建設社長）昭和13年卒  
畔柳 信雄（三菱東京UFJ銀行会長）昭和35年卒

#### 文化・芸術

幸田 露伴（作家）明治12年卒  
岸田 劉生（画家）明治36年卒  
藤田 嗣治（画家）明治32年卒  
芥川 也寸志（音楽家）昭和13年卒  
野村 萬斎（狂言師）昭和54年卒

#### オリンピック

小川 勝（男子フィギュアスケート）昭和52年卒  
美濃部ゆう（女子体操）平成14年卒



このコーナーは、前身の師範学校から135年以上の歴史を有し、スポーツ分野において、オリンピックの金メダリストを始めとし、優秀な選手を多数輩出している本学の体育会を紹介します。

主な競技成績及び今後の試合日程を紹介しますので、是非、各フィールドに足を運び、熱き声援を送ってください。

【筑波大学体育会】ホームページ <http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~taikukai/>

## 男子バレーボール

- 関東大学春季リーグ戦【1部】 5位  
ベストスコアラー賞:鈴木悠二 ブロック賞:篠村矩行
- 第61回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学選手権大会  
12/1~12/7 東京体育館

## 女子バレーボール

- 関東大学春季リーグ戦【1部】 3位  
ブロック賞:樋口美紀 新人賞:野末夏子
- 第3回東西インカレ女子選抜優勝大会 準優勝  
敢闘選手賞:水田祐未 ブロック賞:樋口美紀
- 第55回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学選手権大会  
12/1~12/7 東京体育館

## 蹴球

- 第82回関東大学サッカーリーグ戦【1部・前期】 8位
- 第82回関東大学サッカーリーグ戦【1部・後期】  
9/6~11/23 駒沢第二球技場他

## 女子サッカー

- 第16回全国大学女子サッカーつくばフェス  
一般リーグ得点王:篠井りさ
- 第22回関東大学女子サッカーリーグ戦【1部】  
9/7~11/3 筑波大学サッカー場他

## 男子バスケットボール

- 関東学生バスケットボール選手権大会 4位(7年ぶりベスト4進出)  
優秀選手賞:中務敏宏
- 第48回関東大学バスケットボール新人戦 3位  
優秀選手賞、得点王:山口亮彰
- 関東大学バスケットボール秋季リーグ戦【2部】  
9/6~10/19 筑波大学総合体育館他

## 女子バスケットボール

- 第42回関東大学女子バスケットボール選手権大会 準優勝  
敢闘賞・アシスト王:有明葵衣 ベスト8賞:大鷹さおり
- 関東大学バスケットボールリーグ戦【1部】  
8/30~10/19 国立代々木競技場第二体育館他

## 第1回 硬式野球部

# 目指せ、大学日本一!!



日高一晃 捕手



坪井俊樹 投手



久保貴大 投手

21年ぶりの大学日本一に向け、日々練習に励んでいる、筑波大学硬式野球部(川村卓監督)。同部は全日本大学野球連盟に加盟する全国7ブロックのうち、関東甲信越ブロックの強豪・東海大や帝京大など14校(1部6校、2部8校)が加盟する首都大学野球連盟の1部リーグに所属。1987年の秋季リーグ戦で初優勝し、続く同年の第18回明治神宮大会で、史上初の国立大学の優勝の実績を誇る。近年の首都大学リーグでは惜敗が続き、“今年こそは”と、2度目の優勝に期待がかかる。

現在の部員数は121人。今年は新戦力34人が入部、4年ぶりに女子部員も加入した。同部のモットーは

“全員野球”だ。今年掲げた“One for all ,all for WIN (一人はチームのために、チームは勝利のために)”の精神でチームワークは良好。

部員各自が高い目的意識と熱意を持ち、思考を重ね、それぞれに合った練習メニューを作成、実践している。筑波の“考える野球”の所以だ。川村監督は「私はほとんど何もしていない。力を伸ばすアドバイスをしているだけ」。自ら確率論を研究提唱、戦略上の数々のデータや資料は部員からの厚い信頼を得る。

「正バッテリー以外、実戦経験のある4年生が少ない」チームはベテランと若手の過渡期にある。しかし「戦力は整った。試合経験を通し打線強化を図り、

## 男子ハンドボール

<b>■関東大学春季リーグ戦 優勝(全勝・5シーズンぶり)</b> <b>MVP:</b> 木村雅俊、 <b>優秀新人賞:</b> 出村直嗣、 <b>優秀選手:</b> 木切倉真一、樋口睦、三宅潤 <b>■関東大学秋季リーグ戦 3位</b> <b>優秀選手賞:</b> 木村雅俊 <b>優秀新人賞:</b> 宮崎翔平
<b>■高松宮杯第51回 全日本学生ハンドボール選手権大会</b> 11/20～24 周南市総合スポーツセンター他

## 陸上

<b>■第87回関東インカレ【男子1部】総合3位【女子】総合1位(16連覇)</b> <b>優勝:</b> 男子100m/齋藤仁志 <b>優勝:</b> 男子やり投げ/山田慶太 <b>優勝:</b> 男子400mH/岩瀬佑貴 <b>優勝:</b> 女子800m・1500m/品田貴恵子 <b>優勝:</b> 女子円盤投げ/緒方えりこ <b>■第77回日本大学対校陸上競技選手権【男子】優勝(5年ぶり)【女子】2位</b> <b>優勝:</b> 男子200m/齋藤仁志 <b>優勝:</b> 女子砲丸投げ/山野辺薫
<b>■東京箱根間往復大学駅伝競走予選会 10/18 自衛隊立川駐屯地</b>

## 剣道

<b>■第40回関東女子学生剣道選手権大会 優勝:</b> 菊池愛力 <b>■第55回全日本学生剣道東西対抗試合 優秀選手賞:</b> 遅野井直樹 <b>■第57回関東学生剣道優勝大会 ベスト8</b> <b>■第34回関東女子学生剣道優勝大会 3位</b>
<b>■第56回全日本学生剣道優勝大会 10/26 日本武道館</b> <b>■第27回全日本女子学生剣道優勝大会 11/9 愛知県武道館</b>

## 卓球

<b>■春季関東学生リーグ戦【男子1部】 4位</b> <b>■第78回全日本大学対抗卓球選手権大会 4位</b> <b>■秋季関東学生リーグ戦【男子1部】5位【女子5部】1位</b> <b>最優秀ペア賞:</b> 桑原元希・高木和法 <b>5部A殊勲賞:</b> 佐々木未央
<b>■第43回会長杯卓球大会</b> 11/5～7 駒沢オリンピック公園屋内球技場

## 女子ハンドボール

<b>■関東大学春季リーグ戦 準優勝</b> <b>優秀新人賞:</b> 山野由美子 <b>優秀選手賞:</b> 石立真悠子、小松史香、石野実加子 <b>■関東大学秋季リーグ戦 優勝(2シーズンぶり24回目)</b> <b>最優秀選手賞:</b> 石立真悠子 <b>優秀選手賞:</b> 高橋恵、小松史果、黒木聡子、石野実加子
<b>■高松宮杯第44回全日本学生ハンドボール選手権大会</b> 11/20～24 周南市総合スポーツセンター他

## 柔道

<b>■全日本学生優勝大会 【男子】3位【女子】ベスト8</b> <b>■関東学生柔道優勝大会 【男子】優勝【女子】4位</b> <b>■全日本ジュニア体重別選手権</b> 男子81キロ級:3位/山邊雄己 女子57キロ級:3位/牧志津香
<b>■全日本学生柔道体重別団体優勝大会</b> 11/1～2 日本武道館

## 弓道

<b>■第38回全関東学生弓道選手権大会 優勝:</b> 個人戦・女子/白石 唯
<b>■第56回全日本学生弓道選手権大会 【男子】ベスト8</b>
<b>■関東学生弓道選手権大会</b> 11/2 日本武道館

## ダンス

<b>■第37回東部学生競技ダンスラテン新人戦 団体3位</b>
<b>■第97回東都大学学生競技ダンス選手権大会</b> 10/19 独協大学
<b>■第53回全日本学生競技ダンス選手権大会</b> 12/14 独協大学

優勝を狙う」と、秋季にける意気込みは強い。

春季リーグチーム打率は、2割1分1厘。戦績は6勝6敗で4位に終わった。

「打線をうまくつなぐ事ができれば」。課題は打線の強化だ。打線の主軸は長打パワーが光る、塩沢佑太(体育2年)。右打でライトに長打を放ち、存在感を発揮する。また、山本洋平(体育3年)の俊足、チームでは数少ない左打の五十嵐大(体育3年)ら、選手の持ち味を最大限に活かすこと。

主将の日高一晃捕手(体育4年)は「(春季リーグは)勝てた試合も詰めが甘く落としてしまうなど、悔しさが残っている。その悔しさをどう試合に活かせるかが課題。筑波大学野球部の誇りを持って、1試合1試合、挑戦するのみ」と語気を強める。

悲願の優勝へ、中でも期待が大きいのはエース・坪井俊樹(体育4年)と久保貴大(体育1年)の投手陣だ。

坪井は2年時からエースナンバーを背負ってきた。185cmの長身が繰り出すストレート、緩急織り交ぜた投球術で、敵陣に的を絞らせない。その投球には国内外問わずプロスカウトが注目するほどだ。全日本メンバーに選出された今夏の第4回世界大学野球選手権大会(7/17～27、チェコ)では、数試合に登板。チェコ戦では先発し、白星を挙げた。

今年が大学ラストイヤー。坪井投手は「(大学日本一

という)やり残していることがある。結果を残し後進につなげたい」と話す。

昨夏の全国高校野球選手権大会で佐賀北高校の初優勝の軌跡が記憶に残る、久保投手。リリーフ中心の登板での快進撃や勝負度胸に、マスコミや周囲からは“不思議な力(運)を持つ”と言われ、一気に脚光を浴びた。「どうなのでしょうね。自分では意識してないけれど」と笑う。大学野球は「ストライクゾーンが高校野球と違い戸惑うこともある。投球の一瞬の間をつかれるなど、高校との違いを実感している。今、自分のやるべきことをやり、神宮で勝てる投手になって、大学日本一を味わいたい」と力強い。

川村監督は「戦力は整った。筑波の“考える野球”が全国に証明できる年にしたい」一段と手ごたえを感じている。

近年の首都大学野球連盟 1部リーグ成績		
	春季	秋季
2008	4位	
2007	2位	3位
2006	2位	1位
2005	3位	5位



## 第1回 管弦楽団

### 響け！ 私たちの音楽 ～音と心を1つに合わせて～



「100人以上もの部員が一つの舞台上で同じ音を奏でる醍醐味。異なった楽器の音が一つになるとそれは言葉に表現できないくらい感動が大きいです。演奏後にワッツと拍手がくると、すごく気持ちがいい、やっていて良かったと実感します」と話すのは、筑波大学管弦楽団（小野道之顧問）の第33代目団長、後藤陽介さん（第一学群・自然学類3年）。同団は春と秋の年2回の定期演奏会を活動の中心に据え、日夜練習に励む。創団は1974年。現在の団員140人は本学芸術系サー

クル連合会では最大のサークルだ。

オーケストラの構成はバイオリン（第1、第2）、ビオラ、チェロ、コントラバスの弦楽器、オーボエ、フルート、クラリネット、ファゴットの木管楽器、ホルン、トランペット、トロンボーン、チューバの金管楽器、ティンパニーやトライアングルなどパーカッションの打楽器で、13パート4セクションでハーモニーを奏でる。

各セクションの特徴は「弦楽器は主旋律を奏で、統率

このコーナーでは、課外活動として、演奏会や展覧会、各種発表会、またボランティア活動などで、その腕前を披露している、文化系・芸術系サークルの催しを紹介します。

【筑波大学芸術系サークル連合会】ホームページ <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa/>

【筑波大学文化系サークル連合会】ホームページ <http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~bunsa/>

#### 合唱団むくどり

■芸サ連クリスマスコンサート

12/23 大学会館

#### 吹奏楽団

■第60回定期演奏会

12/7 ノバホール

#### 津軽三味線倶楽部無絃塾

■第11回卒業公演

1/25 土浦市民会館

#### 舞踏研究会

■天野杯

11/9 独協大学

#### 焼き物をつくる会

■展示会

12/23 大学会館

#### ギター・マンドリン部

■第30回定期演奏会

2/14 ノバホール

#### 筑波大学応援団WINS

■日本核磁気共鳴学会第47回NMR討論会懇親会ステージ

11/13

#### つくばフォーク村

■フェス宣伝ライブ

10/30

■フェス

11/1



力が求められる。精細な音色の木管は、視線を集める場面も多い。金管は派手さと優雅な旋律を合わせ持ち、美しい和音を醸し出す。打楽器は、スパイスの要素を持つ第二の指揮者」と後藤団長。

部員の約半数は大学で楽器を始めたばかりの初心者。担当楽器は入部時に各自の希望申請で決定する。本年度はチェロに人気が集めた。「希望に偏りができますが、全体では不思議と音のバランスは取れているんです」。みんなと一緒に演奏する楽しさは、経験者も初心者も共通だ。

練習は基本的にセクションごとにトレーナーをつけて行う。1曲が数十分にも及ぶ交響曲には普段の全体練習では時間が乏しく、合宿でレベルアップを図る。夏合宿は恒例の4泊5日の志賀高原。日夜、音楽づけた。常任指揮者を持たない同団は、音大など外部から講師を招き、常に新しい芸術音楽を目指している。

演奏だけでなく、定期演奏会のパンフレット作成やチケット販売、楽器の搬入、舞台設営など団運営は全て団員で行うなどチームワークも自慢。「大所帯だけれど演奏や運営を通し全員が全員を知り、団内で知らない人など一人もいない。一気に友達が増える、そんな親しみやすい魅力があるサークルです」。

学内でのアンサンブルコンサートや入学・卒業式での

演奏には欠かせない存在。今後は「学内だけでなく、もっともっと多くの人に聞いてもらうためにも、カフェやレストランで訪問演奏、都内にも活動の場を広げたい」と話す。

64回目の定期演奏会は10月10日、ノバホール(つくば市吾妻)で盛大に開かれた。また11月9日には、茨城県で開かれる文化・芸術の祭典『第23回国民文化祭 いばらき2008』(11/1~9、文化庁、茨城県など主催)の“オーケストラの祭典”で、茨城大学管弦楽団と共演、ホルストの代表組曲『惑星』を演奏することが決定しており、両校の合同練習にも一段と力が入る。

「私たちは聞く人に、一流の音楽を届けているつもりです」晴れの舞台で団員の音と心が一つになった時、ひととき大きな喝采を浴びるだろう。



## 茶道同好会

■秋茶会(一般開放)

11/3 開学記念館

## 混声合唱団

■第33回定期演奏会

12/20 彩の国さいたま芸術劇場

## JAZZ愛好会

■芸サ連クリスマスコンサート

12/23 大学会館

## つくば鳥人間の会 記録

■第32回鳥人間コンテスト選手権大会 7/26 琵琶湖  
人カプロペラ機タイムトライアルの部:準優勝

## 落語研究会 記録

■全日本学生大喜利選手権 5/6 武蔵野芸術劇場  
▽大賞:珍々亭候 ▽遠藤賞:てなもんや裸満





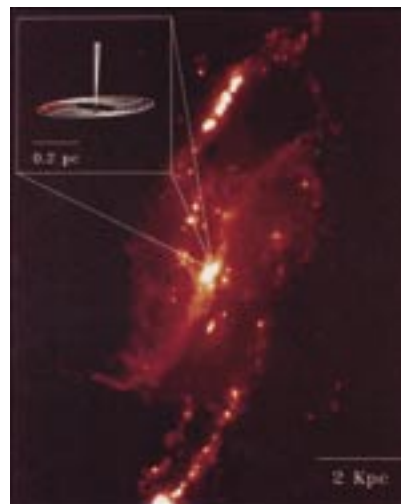
## 中井直正教授が 平成20年度 「日本学士院賞」を受賞

中井 直正教授  
[数理物質科学研究科、物理学専攻、宇宙観測]

中井直正教授（数理物質科学研究科、物理学専攻、宇宙観測）が本年度の日本学士院賞を受賞しました。

受賞の対象となったのは「水メーザー源のVLBI観測による活動銀河中心核と巨大ブラックホールの研究」です。現在、多くの銀河は中心に巨大質量のブラックホールを持っていると考えられていますが、中井教授の研究は、このことについて電波望遠鏡を使った観測によって、初めて実証しました。銀河の構造と進化を解明するうえで基本的な研究として、世界的に高く評価されています。

現在、それを更に発展させて、銀河や遠方宇宙の研究を推進しています。



最初に巨大質量ブラックホールを見つけた渦巻銀河M106（写真）。その中心核に見つかった高速回転するガス円盤（左上）。その中心に太陽の3900万倍の質量のブラックホールがいる。



市村 真准教授  
[数理物質科学研究科、プラズマ研究センター]

## ■市村真准教授が平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）受賞

市村真准教授（数理物質科学研究科、プラズマ研究センター）は、平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）を受賞しました。

受賞の対象となったのは、「アルヴェン波動現象の物理的解明と工学的応用の研究」です。

アルヴェン波は、1970年のノーベル物理学賞を受賞したスウェーデンのH.Alfvenにより理論的に予言された波動であり、宇宙・天体プラズマや核融合プラズマ中の多彩な電磁流体現象に深く関与していると予想される基本的な波動です。犬竹正明名誉教授（東北大学）、安藤晃准教授（東北大学）、天岸祥光名誉教授（静岡大学）、津島晴准教授（横浜国立大学）との共同受賞であり、20年以上にわたる共同研究が評価されたものです。



岩井 宏曉講師  
[生命環境科学研究科]

## ■岩井宏曉講師が平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞受賞

岩井宏曉講師（生命環境科学研究科）は、「高等植物の細胞接着におけるペクチンの生合成と機能の研究」が評価され、平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞しました。同業績は、本来致死性の細胞接着変異体を、半数体植物の組織培養系を用いた新規の方法により獲得し、世界で初めてとなるペクチン生合成遺伝子の同定に成功したものであり、また、植物の特徴である細胞壁の一種であるペクチンが、細胞接着のみならず、植物の分裂・生殖組織の発生・発達に大きな役割を果たしていることを発見するに至ったものであります。



寅市 和男  
筑波大学名誉教授  
[株式会社フルーエンシ研究所  
取締役所長]

## ■寅市和男名誉教授が平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門）受賞

寅市和男筑波大学名誉教授（株式会社フルーエンシ研究所取締役所長）は、「フルーエンシ情報理論に基づくマルチメディア記述形式の開発」の業績により、平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞（開発部門）を受賞しました。同業績は、平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰において審査の結果我が国の科学技術の振興発展に顕著な貢献をされたことが認められたことによります。これは、独立行政法人科学技術振興機構（JST）CRESTプロジェクトリーダとして推薦を受けたものです。なお、この研究は、TARAプロジェクトに引き続き、産学リエゾン共同研究センター（ILC）産学連携推進プロジェクトの一環として行われます。

## アフリカ開発銀行と覚書(MOU)を締結

平成20年5月28日(水)、アフリカ開発銀行(総裁：ドナルド・カベルカ、African Development Bank Group)とアフリカ諸国を対象に高等教育・科学技術分野における人材育成や研究協力を通じてアフリカ諸国の持続的発展に寄与するため、

- ① 高等教育レベルでの人材育成
- ② 共同研究、共同フォーラム等の開催
- ③ 研究・教育における知識・情報の交換
- ④ 科学技術分野における南-南協力の推進

などを目的として覚書(Memorandum of Understanding: MOU)を締結しました。これは、アフリカ開発銀行が日本の大学と締結する初めての覚書です。



調印後、握手する岩崎学長とドナルド・カベルカ アフリカ開発銀行総裁

## 来訪者

### ■鈴木恒夫文部科学大臣、山内俊夫文部科学副大臣が本学を視察

9月4日、鈴木恒夫文部科学大臣が本学を訪問し、体育や芸術分野の実習等を視察されました。

鈴木大臣は、岩崎洋一学長から本学の概要について説明を受けた後、システム情報工科学研究科の山海嘉之教授が研究開発したロボットスーツHALの実演や、体育総合実験棟でのスポーツバイオメカニクスの三次元自動動作分析装置、さらに体・芸中央棟での石膏室、世界遺産専攻等の実習等を視察されました。

また、9月5日、山内俊夫文部科学副大臣が本学を訪問し、産学リエゾン研究センターや計算科学研究センター等を視察されました。



ロボットスーツHALと記念撮影をする鈴木大臣(左から2人目)



ギャラリーに展示してある五輪金メダルを見る山内副大臣(写真中央)

## < 海外 >

5月29日(木) 学長表敬



来訪者：アルゼンチン共和国 特命全権大使一行  
目的：本学で開催する講演会「持続的成長を遂げるアルゼンチン経済のカギ」への出席等

6月2日(月) 学長表敬



来訪者：モンゴル モンゴル科学アカデミー  
地生態学研究所 水資源・利用室長一行  
目的：ユネスコ講座「モンゴル国における持続可能な地下水管理」についての進捗状況及び今後の計画等

6月18日(水) 学長表敬



来訪者：ジンバブエ共和国 高等教育・科学技術省技術・能力開発局長一行  
目的：ジンバブエと日本のパートナーシップの強化、ジンバブエの研究開発能力の向上、産業競争力の強化等



## NHKの アンカーパーソン

悲喜こもごものニュースをわかりやすく伝える、  
NHKアナウンサーの青山祐子さん（体育専門学群／95年卒）。  
地方局からスポーツキャスター、  
現在はアンカーキャスターとして活躍中の青山さんに  
学生時代から社会、そしてこれからの思いを聞いた。

青山祐子さん

NHK



### 大学時代

#### 一筑波大学体育専門学群を希望した理由は？

留学生も多く、国際的なキャンパスのイメージがあり、世界が広がりそうだと興味を持ちました。また前身の東京教育大学のころから体育の課程が独立していたことを知り、高校時代に新体操をやっていてスポーツに関わっていたい思いがあったので、スポーツを通して心理や経済、社会、医学を学ぶことができると思い決めました。場所は気にせずに受験しましたが、筑波は東京にあると思っていたので、あれ？広島よりも田舎かな、すごいところに来ちゃったなって（笑）。

#### 一弓道部入部のきっかけは？

体育系なので、周りはバリバリの現役なんです。そんな仲間が多いので刺激を受けました。高校の新体操の練習は本当にきつかったので、大学で続けることは考えませんでした。何か競技を探していたら、友達に誘われたんです。弓道部は高校からの経験者ばかり。初心者の私でも大学4年間で何かしら身に付くかなと、そんな軽い気持ちで入りました。

#### 一2年生の時に全国優勝。才能が一気に開花しました

勝負を決めるのは、当たるか外すかしなくて明快

なんですよ。自分を客観的と主観的に見る、弓道はその両方を備えていて、見事に弓の道にはまりました。初心者なので学ぶことが多く、スポンジが水を吸うように、面白いように習得しました。怪我は日常茶飯事、腱鞘炎になるほど弓を引きました。調子がいい時は、的に当たると気分が乗って、外す気すらしませんでした。それで2年の時「三十三間堂弓道大の大会」で優勝しました。卒業時には四段に昇段していました。

#### 一学連の副委員長もやりましたね

関東学生弓道連盟で筑波大が担当だった年です。コツコツ頑張ってきたけれど、これまで大会出場に恵まれなかった多くの選手が輝ける舞台を作ろうと、敗者復活戦も入れた壮大な大会を作りました。他校とも交流を深め、とても有意義な時でした。

#### 一弓道に明け暮れる日々でしたが、アルバイト経験は？

いろいろやりました。特にやりがいがあったのが、近隣の小中学生に新体操を教えたこと。時給も良くて。新体操の指導者はあまりいなかったもので、ちょっと振り付けを教えただけで、いきなり県代表になる事も。いろんな可能性に挑戦できて楽しかった。

## 就職

### —大学生活が仕事に与えた影響はありますか？

人見知りする性格でしたが、人に会うのが楽しくなりました。弓道部顧問の森俊男先生の弓道指南の助手で渡欧した時、言葉も違うし正しい文法は知らないけれど、現地の人と積極的に会話をしてコミュニケーションを取りました。人の輪が広がっていくんです。知らない分野があると自分で極めよう、きっかけをくれたのが弓道だったのかもしれません。

### —アナウンサーになり、失敗や特に苦勞したことはありますか

アクセントを共通語に直すのは大変でした。入局してから徹底的に直されました。

失敗は多々ありますよ。でも失敗しても深く考えない。今起きている現実を受け止め、プラスに捉える事で違った1歩を踏み出せる、そんな切り替えができるようになりました。

### —今春、スポーツキャスターからニュース担当になりました

生活パターンが変わりました。スポーツはまず現場ですが、今は局内にいて様々なことに対応しなければならない。最初は知らないことだらけで不安でしたが、知ったかぶりせず、調べたり聞いたりして、納得して。番組も視聴者に分かりやすく伝えることを心がけています。地震や台風など緊急速報の対応は、視聴者を不安にさせないように、まず自分が落ち着くこと。例えば自分のひと言で落ちてくる物から逃げられる人がいる、それで命を救えるかもしれませんから。

### —毎日、緊張が続く生放送ですが、健康管理で気遣っていることはありますか

体はもともと丈夫なんです。海外に行く時は、乾燥からのどを防ぐために機内ではマスクを着用。睡眠不足から体調を崩すことがあるので、暇があれば寝るようにしています。どこでも寝られるようになりましたよ。栄養面ではダイエットも考えず、食べたい物を食べています。

### —今後の目標を教えてください

あまり長期ビジョンは持ちません。番組キャスターとして、自分を磨いていきたいと思っています。スポーツ担当時は、人生をかけて戦っている選手たちのそばで話を聞き、時には選手の相談にものりました。それは大切な財産、これからも共感していきたいですね。

### —大学時代を通し、社会で必要だと実感したことはありますか？

言葉を交わすことです。黙っていては互いに何を考えているのかわかりませんよね。ひとこと声をかけるだけで、互いの距離がぐっと近づく。会話を通して新しいものが生まれてくる。メールではなく、人に会い、話すことが私にとって重要な事です。必要以上に孤独を感じなくて済むし、仲間が増える。オフの日も一人であることはないです。社外の全く違う分野の人と会い、よくおしゃべりしています。

### —最後に、母校にひとことお願いします

大学が大きすぎて、学群が違えば同級生ですら知らないんですよ。体育だけでなく、別の分野でも筑波でがんばっている人がいると聞くと、やっぱりうれしい。在学中はそこにいるのが当たり前だった先生や同級生が、今になってこんなすごい人だったの！と、気付いたりするんですよ。大学は人材の宝庫です。

## プロフィール

1972年広島県生まれ。1995年筑波大学体育専門学群卒業。同年、NHK入局（初任地は長野放送局）。1999年東京アナウンス室。

### ●出演番組

NHKニュースおはよう日本（スポーツキャスター）、サタデースポーツ、サンデースポーツ、ニュースウオッチ9（スポーツキャスター）などを経て、現在、ニュースウオッチ9（アンカーキャスター）として活躍

# 今も全力で駆け抜ける サッカー界のスター

## 中山雅史さん

ジュビロ磐田

### 筑波大学時代

#### ー大学時代の仲間のことをお聞かせください

自分の大学時代は、同級生に井原正巳（元サッカー日本代表）を始め、先輩には長谷川健太さん（元サッカー日本代表）など各年代の代表クラスが揃い、強い時代でした。自分が2、3年の時は関東リーグで優勝、3年の時は総理大臣杯でも優勝し2冠を達成しました。また、バレーボール部やハンドボール部も強く、ラグビー部が明治に勝ったり、まさに筑波おろしのような強い風が体専に吹いている時代で大いに盛り上がっていましたね。そうそう、同級生には中垣内祐一（元バレーボール日本代表）もいて、当時からずば抜けた人気者でしたし、ハンドボールの田中茂（元ハンドボール日本代表）や帝京高校から来てロツテにドラフトされた小林昭則も同級生でいましたね。

#### ーサッカーの練習と勉強はどうでしたか

当時のサッカー部は負けず嫌いが集まっていました。練習の時、走力のデータを取っていたので、「今日は、おまえ何秒？」とか聞いて競ってましたね。時には、「今日は真っ直ぐ帰るよ」って仲間と言って、こっそり筋トレとかしてましたね。

勉強の方は、要領は良かったですよ。友達を沢山作り、いかにテスト前に情報を集めるかが鍵でしたね。竹園東中に教育実習に行き、教職の免許も取りました。カレンロバート（ジュビロ磐田）に後から聞いた話ですが、「うちの兄貴もオレの教え子だった」と言われ、ビックリしましたよ。確か、井原も竹園東中に行ってるはずですよ。

#### ー大学時代のエピソードはありますか

追越宿舎に2年間いました。追越25号棟116号室で、コンビニが一番近かったのも、そのコンビニで井原と一緒にバイトをやりました。他にも、近くの居酒屋で皿洗いしたり、おつまみを作ったり、工事現場でもバイトを



写真提供／ジュビロ磐田

やりましたよ。それと、海外遠征中に太ってしまった顔立ちが、TV番組でビートたけしさんが演じたキャラクター「鬼瓦権造」おにがわらごん ぞうに似ていたもので、先輩から「ゴン」の愛称をいただきました。当時は山中邦夫監督からもそう呼ばれていましたね。ただ、先輩から呼ばれるのはまだしも、同級生から「ゴン」と呼ばれると腹が立ちましたよ。しかし、今となっては皆さんに「ゴン」と呼んで貰っているので、良かったと思っていますが…。

### プロの世界

#### ーワールドカップでの日本人初得点や4試合連続ハットトリック（ギネス記録）を含めて、プロ選手としての一番の思い出はなんですか

もうサッカー人生の先は長くないので、試合を重ねていく上で自分の意図したプレーができたことが一番の思い出になっていくのかなと思っています。確かに過去を振り返るとワールドカップでの得点を始め、色々なこと



が多すぎて、どれだって言い尽くせない。自分自身まだまだ未熟だと思っているので、それをどう成長させるか、どうレベルアップさせるかを考えているし、まだ、これから最高の時が来ることを信じてやっている。なので、過去は振り返らないし、未来も考えない。今この時が一番大切と信じて、今を大事にやっています。

#### 一 現役へのこだわりはありますか

今、自分が一番幸せなことをやっているんです。サッカー選手は、趣味と仕事が一緒じゃないですか。好きなことをして、お金も貰って家族も養っていける。そして自分が好きで一生懸命やっていることを応援してくれる方もいる。こんな素晴らしいことはないじゃないですか。そのために厳しい練習をしなければならぬのは当然のこと、できないのであれば辞めればよい。今が幸せなので現役を辞めようとは思わない。

#### 筑波大学に期待すること

##### 一 筑波大学に対して

筑波大学に誇りと責任を持って欲しい。俺たちは筑波大学生だという意識を高くし、筑波大学をアピールして欲しい。そして、色々な分野で活躍することを願っています。蹴球部には、関東リーグで2部に落ちないのが先決ですけど、当然、優勝を狙って欲しい。そして、現在もJリーグで活躍している選手が多いので、続いてきて欲しいですね。皆さん頑張ってください。



#### プロフィール

1967年静岡県生まれ。1990年筑波大学体育専門学群卒業。同年、ヤマハ発動機に入社。1994年ジュビロ磐田としてJリーグ参入。

##### ●個人タイトル

JリーグMVP、Jリーグ得点王、AFCベストイレブン、Jリーグベストイレブンなど多数

##### ●日本代表歴：1990-2003

●ワールドカップ出場：1998（フランス）、2002（日本）

前進あるのみ。  
龍驤虎視  
中山雅史

# リレー エッセイ

このコーナーは、教職員の皆さんに、自身の体験、近況、趣味・旅行、お勧めの店・スポットなど自由に語っていただくコーナーです。初回のみ広報室でお願いしましたが、次号からは、それぞれが紹介する方に登場いただき、リレー形式でショートエッセイをつないでいく予定です。

学務部学生生活課  
中嶋 まさ枝さん



通勤途中の横断歩道で動く物体を発見。  
「え、かめ？何で亀?!」と運転席から叫んでしまった。  
「きゃあ～危ない!!」  
私の趣味は歌舞伎を見ること、今は海老蔵だの、染五郎だのが旬、そして亀治郎だ。大河ドラマで人目に晒されてしまったのが、悲しい。(笑)  
彼は特に海老のように容姿端麗ではないが立役(男役)ばかりか女形がまた素晴らしい。  
頭脳明晰でプロデュースの才能もあり、これからも亀から目が離せない。  
さて、横断歩道を渡っていた亀さんはどうなりましたか。

今回は、数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻教授の喜多英治さんです。  
「喜多先生、なかなか楽しむ時間が少ない時代になりましたが英気を養うためにまた、『野生の森』でバーベキューでもやりましょう!!」

システム情報工学研究科  
構造エネルギー工学専攻  
准教授

金久保 利之さん



つくば市は「パンの町」とよく耳にする。  
最近、妻が気に入っているというパン屋に行ってみた。学生時代からよく通っている天久保の道沿いにある、ドイツのパン屋さん、ベッカライ・プロートツァイト。  
噛み堪えのあるパンに、チーズと生ハムを挟んだだけのシンプルなサンドイッチを選んだ。  
家族でまったく話ができないうくらい黙々と真剣に噛んだ。何だか普段使っていない顎の筋肉が痛くなって来るくらいだった。おいしかった。  
一つ困ったことは、その後、どんなパンを食べてもふにやふにやな感じがすることだ。

今回は、学術情報メディアセンター 関根敏男さんです。  
「子供達の保育所で8年間一緒だった父親仲間です。」

附属駒場中・高等学校教諭  
加藤 裕司さん



私の趣味は、クラシック・ギターです。  
高校、大学時代は、ギター同好会の活動に熱中していました。大学時代は、占春園の北にあった部室に入り浸っていたことをよく覚えています。前任校の都立高校ではギター部を作って指導していたこともありましたが、それ以降は、練習とも遠ざかっていました。  
この3月に、母校の都立戸山高校で、ギター同好会のOBコンサートがあり、元部員が大勢集まり盛大なものになりました。私は、演奏はしなかったのですが、いまだにレベルを保っている後輩たちの演奏を聴いて刺激され、最近練習を再開した今日この頃です。

今回は、附属学校教育局教授 小林 汎さんです。  
「送別会で同僚の丸浜先生のフルートと私のギター伴奏でボサノバを奏でてお送りしました。お元氣でしょうか?」

附属病院 リハビリテーション部  
理学療法士

前島 のりこさん



私は今、ママさんバレーのチームに所属しています(私は決してヨメでもママさんでもありません)。  
夏休み中、久々に練習に参加したのですが、ただでさえ暑い体育館の中で汗をかきながらバレーボールをするのは、最高に気持ちよかったです!  
気分転換に運動するのは楽しいですね。  
体力勝負の仕事なので、体力を維持するためにも、気分転換をするためにも、これからも運動は続けていきたいと思っています。  
……ちよつとした宣言でした。

今回は、附属病院801病棟の看護師の竹内麻純さんです。  
「脳外科の飲み会で知り合ったお友達で、素敵なお姉さんです。」

附属図書館情報管理課

斎藤 未夏さん



名前に「夏」があるせいか、夏が近づくと心が浮き立ち、なぜだかバリ島に行きたくなります。ライトアップされたプールをすいーっと泳ぐカエルや、夜中に突然テンテンと鳴き出す、壁にはりついたヤモリ。白い砂浜でとてつもなく大きくて華奢な帆船型の凧を売る人や（一体誰が買うのだろう、と思えば）それを気前良く買う欧米人旅行者（一体どうやって持ち帰るのだろう）。

何度か訪れたバリ島でのそんな風景が初夏の陽気とともに鮮やかに思い出され、紫外線とシミの恐怖も忘れて毎年「また行きたい！」と家族に言っては呆れられています。

次回は、図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻教授の永田治樹さんです。  
「こう見えても院生の私の指導教員、永田治樹教授です。」

人間総合科学研究科長

清水 一彦さん



「継続は力なり！」8年間の単身生活、筑波と田舎山梨の往復生活にピリオドを打ち、家族で筑波宿舎に移り住んではや3年が過ぎましたが、山梨自宅での農作業はまだまだ1ヶ月に1～2度続いています。百姓育ちの私にとって大自然の中での米づくりや草刈りの仕事はかけがえのない爽快感と開放感を与えてくれます。「草刈りの清水」とも呼ばれています。小さいうちから続いている農業労働との結合生活は、私に「生きる力」を与え、そして「生き方」を教えてくださいました。

定年後にはおそらく「生きがい」を恵んでくれるものと信じています。

次回は、人間総合科学研究科医学系支援室の佐野英夫さんです。  
「佐野さんは、現在、「家庭菜園」と「マラソン」にはまっているそうです。」

人文社会科学等支援室  
大学院教務

赤羽 英夫さん



私など第1回目を飾るにふさわしいかどうか非常に不安ですが、人社支援室において大学院生のお世話をする傍ら、今話題の茨城空港建設が予定されてる地元小美玉市で少年サッカーの指導を初めて25年が過ぎました。小学生を中心に毎週土・日、グラウンドで大声を発しています。

以前は職員サッカー部のゴールも守っていました。最近では教え子が親となり、指導の仲間入り。週末の活動を楽しみに、月曜日からの仕事にがんばっています。

6月の全国予選県大会では、アントラーズつくばとも対戦しました。

次回は、学務部学生生活課の土子昇さんです。  
「土子さんは、私と同じ小美玉市の出身です。」

図書館情報メディア研究科  
図書館情報メディア専攻  
教授

長谷川 秀彦さん



私は春日キャンパスの住人である。

新しい看板に慣れたと思ったら学群再編で慌たしい日々を送ってきた。

学生たちは「ほんがくへ行く」と言って、体育や外国語のために出かけて行くようになり、そのかわりに中央公園からカモが遊びに来るようになった。

春日キャンパスには小さいけれど立派な講堂やホールもあり、研究棟からは雉を見ることもできる。

TXの開通で駅近くの一等地となり、知らぬ間に国替え計画が進んでいるとの噂も漏れ聞くようになった。静かな日々は戻ってくるのだろうか？

次回は、附属学校教育局 学校支援課の川尻明男さんです。  
「川尻さん、東京大塚はどうですか？」



#

# イベントカレンダー(10月～12月)

## 10月

- 1日(水) 開学記念日
- 4日(土) 附属桐が丘特別支援学校「運動会」
- 6日(月) AC I期 第2次選考(10/6～17)
- 8日(水) 篤志解剖体慰霊式
- 10日(金) 附属高校「120周年記念式典」
- 11日(土) 学園祭(10/11～13)  
ホームカミングデー
- 13日(月) 国際純粋・応用物理学連合  
(IUPAP)総会(10/13～18)
- 15日(水) 大学院入試「10月期」(10/15～17)  
学長主催外国人留学生懇談会
- 18日(土) 筑波キャンパス電気設備点検  
「全学停電」(10/18～19)
- 22日(水) 第1回日中大学院学生フォーラム  
(10/22～24)  
海外留学説明会
- 23日(木) AC I期 最終合格発表
- 25日(土) 秋季スポーツ・デー  
(10/25～26)
- 29日(水) 学長候補者 意向調査学内投票
- 31日(金) 学長選考会議 学長予定者の公表  
大学院入試「10月期」合格発表

## 11月

- 1日(土) 附属視覚特別支援学校「文化祭」  
(11/1～3)
- 4日(火) 2008年度国際農学シンポジウム  
(AgESDSymposium)  
(11/4～11)
- 9日(日) 大学院入試(法曹専攻)「1次」
- 11日(火) 日本核磁気共鳴学会  
(11/11～14)
- 15日(土) 大学院入試「東京地区」  
(11/15～16)
- 18日(火) 第2学期授業終了
- 20日(木) 農林技術センター収穫祭
- 22日(土) 附属大塚特別支援学校「大塚祭」
- 27日(木) 入学試験「推薦/帰国(芸術)」  
(11/27～28)
- 30日(日) 第28回つくばマラソン

## 12月

- 1日(月) 第3学期授業開始  
フランス留学フェア
- 4日(木) 横幹連合総合シンポジウム  
(12/4～5)
- 5日(金) 大学院学位記授与式
- 6日(土) 課外活動団体リーダー研修会  
(12/6～7)  
国際経営プロフェッショナル専攻  
オープンキャンパス
- 7日(日) 大学院入試(法曹専攻)「2次」
- 8日(月) 合格発表「推薦/帰国(芸術)」
- 22日(月) 附属視覚特別支援学校  
「創立記念日」
- 23日(火) 第6回全日本大学女子選抜駅伝競走



## Tsukuba Communications

vol.1

平成20年10月発行

編集・発行：筑波大学広報室

住 所：〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

電 話：029-853-2063

E-mail: kohositu@sec.tsukuba.ac.jp





中村晋也氏 作  
《Miserere X VII 1999》  
ミゼレーレ17 ブロンズ像

中村氏は、本学の前身の東京高等師範学校出身で、平成19年に文化勲章を受章されています。  
ミゼレーレのシリーズは、平成7年に阪神淡路大震災の被災者への鎮魂の思いから、折りのテーマをモチーフにしたミゼレーレのシリーズ制作を開始。平成11年までに18体を制作しました。ミゼレーレⅢは日本人として初めてバチカン美術館に収蔵されています。



**Tsukuba**  
Communications

